

第8回穂波地区人権講演会

部落問題と人権報道～当事者が語る部落問題～

事業報告

1 事業実施の目的

穂波まちづくり協議会は、人権が尊重され、明るく、豊かな活力あるまちにすることを目指しており、差別やいじめをなくし、思いやりのある住み良い穂波にしていくため、人権講演会を実施します。

2 全体計画

企画名	部落問題と人権報道～当事者が語る部落問題～		
講師名	西田 昌矢さん（元西日本新聞社記者・フリージャーナリスト）		
実施場所	会場名：穂波交流センター 大ホール		
	住 所：福岡県飯塚市秋松408		
実施日	令和6年8月24日(土) 10:00～11:30		
参加者	89名	参加料	なし
講師プロフィール	2017年に西日本新聞社に入社。その翌年に長崎総局に赴任、原爆や外国人の長期収容問題取材。2021年から朝倉支局長を務めたのち、本社社会部で勤務。2022年に始まった企画「人権新時代」の中での連載「記者28歳 私は部落から逃げてきた」を担当。実体験をもとに、現在も残る被差別部落問題を伝えてきた。現在はフリージャーナリストとして活動。		

参加者感想

- 差別は日常の温かな生活の中に突然ナイフで切り込んで来るようなするどい冷たさがあります。日常生活を語ってくださることで、私自身が抱えている被差別問題と通じるところが多くあり深く共感しました。新聞ではずっと読んでいましたが今日は西田さんとお会いできてうれしかったです。
- なかなか人に言えない「生きづらさ」を持っている人はすぐそばにいるかもしれない。私の発言が傷つけないか考えて行動したい。

- 西日本新聞の記事を紙面で読んでいたので、あの連載記事ができるまで、様々な葛藤や苦勞、経験の積み重ねがあったんだなと思いました。部落問題などの人権課題に関する学習は小中学校ですずっと行ってきているが、解消に向けてどれほど力になっているのかと無力感を感じることもあるが、自分事としてとらえて考えていけるよう取り組んでいきたいと思いました。
- 部落出身者としての自分の考えが見えない。ジャーナリストとして、人の話を聞いた事により自分の取り組みや他の人から聞いた事により自分の事としているか、自分の事としてとらえてほしいと思います。
- 西日本新聞の連載を読ませていただいております。興味深く読ませていただくと共に、記者の方ご自身が知りたい、学びたいという思いが何より強く伝わってきたのを覚えています。一緒に学んでいきましょう、みんなで学んでいきましょう。今日も良い学びの機会をありがとうございました。
- 当事者の話として分かりやすく色々納得しました。もう少しゆっくり話してもらえるともっと聞き取れると思います。ありがとうございました。
- 元高校教員です。高校生の「友の会」に参加していました。そこで関わった生徒たちの顔をたくさん思い出しました。高校で2年連続で差別発言（「エタ」発言）があり、部落研の生徒たちが「先生たちに任せておけない」と全校集会を開き生徒たちに学ばされてきました。
- 確かに自分の何かが他の人にどう映っているか、心配になることを抱えた時、自分がどう自分を持ち続けられるかと心配である。
- 最近聞こえが悪くなってきた、話の端々しか聞こえないのだが・・・「サピエンス全史」という本がある、その著者によれば、他の動物と人間の違いは「虚構」を取得できたかどうかということである。「虚構」というのは「噂話」というらしい。「虚構を取得したから人間」。うまく言い表せないのだが、ありもしないことで他人と自分を別ものと意識する本能がある。残念なこと、悲しいことだが、差別意識はなくなるのではないと思う。このような取り組みは人間が存在する限りしなければならぬ。幼い時「橋のない川」という映画を見た涙がでた、人間の感情をもっていた。
- 障害のある人が生きやすい地域社会について学びたいと思います。
- 当時者の方の話を聞いて良かった。1番大切なところの話が聞けたと思います。ありがとうございました。
- 当事者としての話は、極めて重いものだが、今後の講演会等の企画においては、このような意義深いものとなるよう考慮してもらいたい。
- 話が聞きとりづらかったり、話の内容が分かりづらいところもあったのですが、部落差別、部落の内側にいた方から話を聞くのが初めてだったのでとても勉強になりました。率直な実情が伝わってきて、また一つ部落差別について知る事ができて良い経験になりました。
- 「月に行ける時代・・・」の部落差別当事者が「何かをする」のではなく周囲の私たちが何ができるか常に考えたいです。自分の子どもの年代から見える差別問題を改めて感じる事ができました。
- 今後も続けてほしい。
- 西田さん貴重な体験（生きた証言）とありがとうございました。いい勉強になりました。今後のご活躍をお祈りします。

- 私も幼少期の西田さんと同じく、部落問題は昔の話だと思っていましたが、西田さんの経験や差別を受けた方のお話を聞いて、現代でもある根深い問題なのだと意識が変わりました。自分なりにより理解を深められました。
- 思いやりのある人間を育てる。差別する人が変わらないと。日頃の教育が大事なかな。
- なんで差別がなくなるのかと常々思う。メディアもいろいろあるが、メディアの責任が一番あるのではないのでしょうか。本日はありがとうございました。
- 胸の奥に押し込んだ切実な願いに応えられる新しい時代をみんなで作りたい。という言葉は同感です。
- 西田さん本人の差別体験が聞きたかった。幼い頃から受けたことがないと思ってあるだろうけど、大人になってあの時が差別だったとわかる事があるのではないのでしょうか？
- 被差別部落は何で出来たのか？講演会にはよく出席するが私自信根本が分かっていない。
- 心の中の葛藤の部分を率直に話ししてくれたことがありがたいと思った。
- すごくよく分かった。特に母の葛藤、同感です。うまく言えませんが、なんか分かるという気持ちです。差別はすぐには無くならないですが、もやもやした気持ちが少しでも減ればいいと思います。
- 貴重な講演会ありがとうございました。私の家族に障がい者がいます。「生きづらさ」を感じる事がすごくありました。差別がなくなる世の中になるようみんなで取り組んでいきたいです。
- 当事者の方の話は、とても深く感じる事ができました。
- 西田さんの子どもの頃からや、長崎での出会いを通して部落問題に向き合う変化がよくわかりました。当事者の貴重なお話が聞けました。自分に何ができるか考えていきます。
- 連載を読んでいたのが西田さんのお話しが聞ける事を楽しみにしていました。教育に関わる者として、今自分にできることを考えていきたいと思います。
- 「月に行ける時代・・・」の部落差別当事者が「何かをする」のではなく、周囲の私たちが何ができるか常に考えたいです。自分の子どもの年代から見える差別問題を改めて感じる事ができました。
- 部落について詳しく聞くことができよかったです。難しい問題だと思います。自分も両方の経験をしました。又このような講演会がありましたら、参加したいと思います。ありがとうございました。
- 住所を書く時にとまどったり、付き合う人にカミングアウトするなど、当事者の方にしかわからないお話で、勉強になりました。
- 様々な人権問題がある世の中で「生きづらさ」の中で生活するわたしたち！周りにいる身近な人たちと、まずは思いを共有できる、わかりあえる、世の中になるよう生きていきたい。
- 当事者の話を聴く、思いにふれる、あらためて大切だと感じた。
- 今までの人生の中での様々な体験や思いを聞かせていただきました。今の私の職務の中で、今日私が感じ考えたことを自分の言葉で伝えていきたいと思います。ありがとうございました。
- 新聞で記事は読んでいましたが、実際に話を聴くことができとても良かったです。
- 若い人の話が聞けて良かった。

- 部落に生まれた当事者の方の話を実際に聞くことで、どういう問題に直面しているのか、どういう思いを持っているのか知る事ができ、自分ももっと部落について詳しく知っていくべきと感じた。
- 自分のことを語ってくれ、当事者の持つ複雑な思いが身に染みしました。こんな思いをする人をなくすため部落差別をなくさなければいけない思いを新たにしました。ありがとうございました
- 部落差別（結婚問題）の実体験をたくさん聞いて差別をなくすことの難しさを知りました。告白された時の相手の反応がどうなるかは、その人の学習によるところが多いと思う。研修は大切だと思いました。
- 当事者としての思いを率直に、素直に語ってくださったことに、感謝しています。人権問題はみんなで考え、知り、取り組んでいかないといけないと、改めて感じました。ありがとうございました。
- 今回のように、穂波地区の講演会ですが、他地区（市内）の教育機関等でも、お知らせして頂けるととてもうれしいです。貴重なお時間、ありがとうございました。
- 西日本新聞の連載を興味深く読ませていただいていた。7月の強調月間講演を他市でされていて、行きたかったのですがタイミングが合わずいけなかったので、今日楽しみにしていました。同様に知っていれば聞きたかったという人もたくさんいたと思います。他市町にも広く呼び掛けてもいいのかもしれない。
- 頑張ってもらいたい、西田さん。
- 話の流れで聞き取れない単語があったが、言いづらいために声が小さくなったり、早口になったりしてるのかと思った。言いづらいことこそ、私たちの聞きたいことなので、頑張ってもらってほしいと言った。聞きながら胸の痛くなることもあった。当事者しかわからない感情、思いを聞いてよかった。もっと学びたくなった。
- 自分の体験をふまえて話しをしていかれて、わかりやすい話でした。子ども達にもぜひ話をしてもらいたいと思いました。「みんな」でこれからも取り組んでいくために、このような機会が大切だと思いました。
- 今でも苦しんでいる人がいることを改めて感じた。どこか「他人事」だと思っていたけど、今日の話聞いて、差別は絶対になくしていこうと思いました。
- 久しぶりの人権講演会でした。話をしっかりききました。難しかったです。
- 聞き取りにくかった。現状の厳しさに驚いた。
- 聞き取りづらかった。
- 「郷土愛（故郷）を奪うのが部落差別」という言葉がこの差別の本質を表していると感じた。
- 身近で部落差別に事例を聞かないが、今回の話を聞いて、改めて部落差別の解消に取り組む必要があると感じた。
- 若い世代の方からの「当事者の声」を初めて聞くことができました。ありがとうございました。
- 「みんな」で何ができるのか考えていきたい。
- 西田さんの記事は読んでいたので、その思いを聞くことができ、とてもよかったです。当事者のお話を聞くことで現実に今も残っている問題だと感じました。差別は差別する側の問題という意識を改めたいと思います。もう一度、記事を読み直そうと思いました。ありがとうございました。
- 「普通に暮らしてほしい」、悪い言葉であると感じた。マジョリティの責務を考えさせられた。

第 8 回穂波地区人権講演会

部落問題と人権報道

～当事者が語る部落問題～

西日本新聞社では、長期企画「人権新時代」の中で、被差別部落出身の若手記者による当事者視点での差別の実態をつづった記事を連載し、読者から大きな反響がありました。この企画は、時代が変わっても形を変えて現れる根源的な課題に真摯に向き合ったことが評価され、2023 年度の新聞協会賞を受賞しました。

今回の講演会では、当事者である当時の記者が、紙面に企画を連載するに至った思いや意義を語っていただきます。

講 師：西田 昌矢さん（元西日本新聞社記者・フリージャーナリスト）

日 時：令和6年8月24日（土）10時00分～11時30分

場 所：穂波交流センター 大ホール（飯塚市秋松408）

参加費：無料 手話通訳：あります
 託児：あります（0歳～未就学児・無料） ※託児申込は、8月14日（水）までに穂波交流センターへ、お子様の人数と年齢をお電話等でお知らせください。
 主催：穂波まちづくり協議会、飯塚市自治会連合会穂波支部、NPO 法人人権ネットいづか、飯塚市
 問い合わせ：NPO 法人人権ネットいづか（0948-24-7582）穂波交流センター（0948-24-7458）

